

# 行政評価委員会開催結果報告書

平成24年8月6日

会議の名称	平成24年度第9回石狩市行政評価委員会
開催日時	平成24年7月19日(木)9時25分～11時45分
開催場所	石狩市役所3階 庁議室
出席委員	松井委員長 長谷部副委員長 堀内委員 堀委員 岩崎委員  (計 5名)
欠席委員	  (計 0名)
説明員職氏名	  (計 0名)
傍聴者	  (計 1名)
議題等	1 議題(評価意見の検討) (1)施策「地域福祉の充実」について 2 その他(次回の日程確認等)
結果	・議題の施策について、評価意見の検討を行った。 ・検討意見は事務局にて取りまとめ、次回以降の委員会で各委員の確認を受けて確定することとした。  (次回開催日程) 第10回 平成24年7月30日(月)13:30～ 於:庁議室
事務局職員	企画経済部 松田企画課長、佐々木主査、青木主任

## 審議内容の記録（審議経過、結論等）

### 1 開会（10：10）

### 2 議事

#### (1) 施策「地域福祉の充実」について

（評価意見の検討）

【意見交換】（ は委員発言要旨、・は事務局発言要旨）

（ボランティア活動について）

ボランティアは個人志向が強まり、登録者が増えている状況であるが、組織化も含めしっかりとしたコーディネートが大切であると考えます。

ボランティア団体であれば目的がはっきりしていると思うが、個人のボランティアは組織化されておらずサロン化しているのではないかと懸念します。

個人のボランティア登録では、情報の伝達や命令系統がはっきりしていないのではないかと懸念します。上手く組織化することは出来ないのだろうか。

個人で東北支援に参加した人々は、今後、市内で何かあった時にはその経験が役立つものと思う。

個人ボランティアの活動の実態は掴み難いのではないかと懸念します。

・事業評価シート上で活動状況は目に見えていないが、社協のボランティアセンターでは、会報誌（愉快な仲間）を発行するなどして活動の紹介を行っている。

個人登録では活動の目標や場所がバラバラとなることから、登録してくれている人同士の結びつきをどうしていくのかが課題ではないかと懸念します。

現在の成果指標は、ボランティア登録数の増加を目標に据えているが、今後はその活動状況が見定められるような指標設定や仕組みを検討することも必要である。

ボランティアの活動状況が見えるような仕組みづくりを強化すべきである。

ボランティア登録数の840人は過去のトレンドによる目標値である。現時点では、登録数をもっと増やしていくことを目標にして良いと思う。

具体的な改善策にあるボランティアポイント事業とは。

・ボランティア活動の活性化を図る方策の一つとして、事前登録者によるボランティア活動に対して「ハイスタンプ」を付与する制度である。ボランティア活動に関わって行くための一つのきっかけづくり、ボランティア活動の底上げを目指したものである。

ボランティア活動は、量的な評価から質的な評価も必要ではないかと懸念します。

ボランティア登録数を増やしていくことと同時に、ボランティアセンターの活躍の場面を増やしていくことも必要である。

登録だけを行っていて、実際には活動をしていないというボランティア登録者もいるのか。

・活動頻度などに個人差はあると思うが、登録だけという人はいないと聞いている。

（地区社会福祉協議会の取組みについて）

地区社協の活動や権限はどうなっているのか。

・町内会を一つの単位として組織されているようである。ふれあい給食サービスやサロン事業など、

社協本体よりも地域の中できめ細かい活動を行っている。

地区社協設置数の目標値は17地区であるが、既に目標に到達している。最終目標は17地区ではないのでは。

・昨年の総合計画の見直しにおいて、単に上昇という目標設定ではなく、具体的な数値目標を設定するように心がけたところ。必ずしも17地区で満足しているということではない。

地区社協に対する評価にあたっては、社協本体との関わりなど組織の全体像が見えないので、判断が難しい。

今後の改善の方向性の中で、浜益区に地区社協の設置の動きがないことを指摘しているが、浜益区にも本当に地区社協が必要なのか疑問である。地区の実情に応じて対応しても良いのではないか。

地区社協が主体となった活動を促進するためには、町内会との結びつきを強めることが第一だと思う。

地区社協の母体である町内会では、加入した年代、年齢層など事情も様々である。具体的な活動を通して活動を活発化しなければならないのでは。

・地区社協は町内会と民生委員、地域の高齢者クラブなどが一体的に活動しているもの。

・地区社協の取り組みは、協働にもつながるものと考えている。地域福祉の推進は組織づくりがポイントであると思う。

社協本体から地区社協に運営費の一部を補助し、活動の充実を図ることとしているようであるが、地区社協のこういった活動を通して地域福祉の充実を目指しているのか。

・地域福祉の充実は、高齢者や障がい者、児童など様々な福祉を展開していく上のベースとなる施策であると考えている。地区社協は地域福祉の充実のための基盤となる組織ではないか。

地区社協も自分達の地域でどうやって盛りたてて行くか議論していくことが必要だと思う。地域を支え合っていく体制は出来ていても、自分達が主体となって実際にこういった活動をして行くのか。

地域福祉の充実に関する方向性は間違っていないと思う。末端の組織まで活動の輪が広がって行けば、地域福祉の充実につながって行くと思う。

地区社協の活動は、社協本体から示されることを行うといった受け身ではなく、それぞれの地区にあったやり方で、特色をもって取り組んでいただきたい。

地域福祉の輪を広めていくためには、地域の事情を踏まえながら、地域に根ざした事業計画の実践をするべきである。

(その他)

ボランティア活動の拡大は、個人レベルの地域福祉意識の高揚につながるものであり、地区社協の取り組みは、地域福祉の実践につながるものとする。

(14-1 包括的継続的ケアマネジメント事業)

地域ケア会議専門部会の開催数は減ってきているが、対応が急がれる場合などは別の検討会を開催して対応するとのことであった。関係者の業務負担を考慮すれば、必ずしも年何回しなければならないというものではないと思う。

(14-3 社会福祉協議会運営支援事業)

「今後の方向性」に関するコメントで、「運営基盤の強化」については理解できるが、「地域福祉の推進に向けた事業着手と拡大」については具体的にこういったイメージなのか示してほしい。

(14-5 遺族会運営支援事業)

戦没者の子や孫の加入など、遺族会がある限り続ける必要があるとのことなので、遺族会会員数の指標は不要ではないか。さらに、評価対象の事務事業として位置付けることが必要なのかと考える。

(14-6 石狩市保護司会運営支援事業)

石狩市だけの問題ではないが、無償ボランティアである保護司を有償化するといった議論も必要ではないか。

(14-7 ライフサポート組織育成支援事業)

直接活動には参加できない人が、「賛助会員」制度を通じて支援できるということは有意義であると思う。こういった仕組みは、厚田地区やこの事業だけに限定せず、もっと広めていくべきである。

3 その他

(1) 次回の日程確認

・ 次回、第10回委員会の開催日程を確認。

第10回 7月30日(月) 13:30~(庁議室)

4 閉会(12:05)

平成 24 年 8 月 8 日 議事録確定

石狩市行政評価委員会 委員長 松 井 義 孝